

朝日歌壇俳壇



アザミに似た花とマンション

岩尾恵都子

短歌時評 セルフケアの詩型

小島 なお

小野茂樹は歌集『羊雲離散』のおぼえがきで、短歌の詩型のことを「整流器」として書いた。「日常会話の一節ですら完結したい日々、何となくを言っておける世界がどこかにあっていい」と。小野の思いは、情報と言葉の止まない現代を生きている私たちの精神にあらためて共振するように感じる。

風のように渡るう眠るしもうまの毛の下はまだ燃えているから
加古陽『夜明けのニュースデスク』

は、新聞記者としての取材体験を通じて世界の様相と、歴史を形作ってきた時間の局面を眼差す歌集。長崎の原爆落下中心地を訪れた作で、「しまつまはゼブラゾーン(横断歩道)を示唆する。歳月の舗装をめぐればすべ下、被爆地として苦しむ肉体の熱が息づいているのだと。暴力から生まれた暴力太郎から生まれ、た暴力太郎、あたしは
山中千瀬『死なない猫を継ぐ』は、社会という大きな構造が要請するもの、逃

大木あまり句集「山猫座」 2015年新年から21年春までの作品を収めた第7句集。「大木家の祖は狼と去年今年」「道つけて行くかに飛べり黒猫羽」(ふらんす堂・3080円)
田丸千種句集「葬花」 2016年から22年までの句を収めた第2句集。「春水満」の項に「麗人と佳人出くはす梅の下」「かき餅がなくなるまでは春火鉢」。(朔出版・2750円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週に2作品まで)。QRコードから。

高野公彦選

露の世に百歳までも承らへて愉しかりけり露の世さよなら (我孫子市) 松村 幸一
停戦中瓦礫と化した家に戻り遺体を探すがザの人々 (つくば市) 山瀬佳代子
和入らがアイヌモシリに踏み込みし過去を思へりガザ・ウクライナ(さいたま市)大浦 健
☆猛吹雪やまない町のスーパーで知らない人と心配し合う (富山市) 松田 わこ
満票に一票足りずその記者と飲みたいと言っイチローの笑み (東京都) 椿 泰文
四世代八十八から一歳まで「むすんでひらいて」を歌う新年会 (東京都) 上田 結香
作り手の気立て映すや優しげな壇輪の武人のがらんだ目の目 (下呂市) 河尻 伸子
いいぞ宇良、君の味方は徳俊全力相撲をファンは知ってる (甲州市) 麻生 孝
スーパの書肆の撤退 無くなって初めて分かる大切なもの (観音寺市) 篠原 俊則
母の歩く速さに合わせゆくりと歩けば枯草うつしく見ゆ (仙台市) 小室 寿子

【評】1首目、作者は12月30日に亡くなられ、これはご子息(治さん)が代筆して送ってくださった遺詠。爽やかな辞世の歌である。2首目、停戦でやっと遺体を探せるといふ悲劇。3首目、そういえば日本人もかつてアイヌの国に侵入した。

永田和宏選

亡骸はあなたではない いま肩に見えない片手触れてるのがあなた (枚方市) 金光 久子
咽喉筋震わせながら父の姓選ぶ幼き吾子のくちびる (厚木市) 本庄 伸子
火打石から話そうかマッチつてなあに見たことないって言う子等に (名張市) 金曾 明子
☆黒塗りに隠された文字六人が未だ欠けている学術会議 (松山市) 岡本 秀美
好きなのに、好きだよと言われるたびに逃げたくなってしまうのはなぜ (相模原市) 榎本 ハナ
三十代友は赤子を青みて我はタンパク質精製す (東京都) 井上 智景
「こりようしん(あいさつ)」をここの言葉宇宙の言葉のように聞いている(富山市)松田 梨子
1/fゆらぎと魔法の炎、薪ストーブに心がとける (相模原市) 宮崎 清美
味酒の三輪君が来て酌みかはし高血糖をけふは忘れむ (大阪市) 渡辺たかき
行きつけの小さな本屋に注文し重版待ちいる歌集「ゆふすげ」 (埼玉県) 中里 史子

【評】金光さん、哀しい歌だが実感だろう。いまも肩に手を触れてくれている確かな感触。それこそがあなた。本庄さん、事情は確とはわからないが、幼い子に両親のどちらかの姓の選択を迫る。そんな苛酷な選択を強いなければならぬ悲しみ。

馬場あき子選

絵本から絵がなくなつて本になるように幼なは子になつてゆく (浜松市) 尾内甲太郎
薄雪のかからぬ砂を選び浴び雀の掘りし窪み温りて (多摩市) 豊間根則道
合格し家を離れる子はそつと老猫を抱き別れを告ぐる (さいたま市) 齋藤 紀子
節分に鬼は外と言ひ豆撒くが僕の心に鬼いつも居る (流山市) 石黒 紀夫
土削り古代ロマンを探りいる人らの群に粉雪の舞う (亀岡市) 俣野 右内
☆墓じまいすなわちそれは故郷終い一人が去つて一族も消ゆ (西海市) 前田 一揆
☆猛吹雪やまない町のスーパーで知らない人と心配し合う (富山市) 松田 わこ
温かき左義長の火に餅を焼く娘の背に神の粉降る (岐阜市) 後藤 進
年ごとに教科書仕入れの数減ると山峡に聞く本屋の嘆き (名古屋市) 磯前 睦子
初めての鉢のイチゴに実が生りて寒気の中で胸熱くなる (宮崎市) 太田 博之

【評】第一首は絵本から、子の成長に合わせて絵が少なくなり文章が多くなるという事態に合わせて、面白く子の成長をうたう。第二首はよき砂地を求める雀の生態を可憐に思わせる。第三首も老猫への愛着により長い関わりが見える。

佐佐木幸綱選

泣き叫ぶ声を瓦礫が語つてるガザを伝へる白黒写真 (前橋市) 和田 明
聴衆が歓声上げる性別は男女しかないと言っトランプに (観音寺市) 篠原 俊則
新春に訪ふ文学館に方代の企画展ありて丸き文字よむ (鹿嶋市) 大熊佳世子
☆黒塗りに隠された文字六人が未だ欠けている学術会議 (松山市) 岡本 秀美
☆墓じまいすなわちそれは故郷終い一人が去つて一族も消ゆ (西海市) 前田 一揆
鳥の羽舗道の上に散らばれり弱肉強食の闘いの跡 (沼津市) 山本 昌代
子を連れて女ひとりて生きていく厳しさ込みる娘の離婚 (京都府) 片山 正寛
次々と水中ドローンが映しゆく海底地滑り崖崩れ跡 (石川県) 龍上 裕幸
残業後の我を自宅で出迎える鳴りっぱなしの目覚まし時計 (大阪市) 加藤 成和
ワニ、コブラ、サソリ、猫、蝶、流れ星、ヨガの束の間ヒト脱ぎ捨てる(土浦市) 原田 啓子

【評】第一首、モノクロ写真をうたつて、動き、音、色彩を想像させる工夫に注目、新しいタイプの戦場詠。第二首、トランプジェンダーを認めないトランプとその支持者たち。第三首、親しかった歌人・山崎方代をひさびさに思い出した。